

基督教学研究

第 9 号

論文

西田幾多郎とキリスト教

——滝沢克巳の思索を手がかりとして——

……………小川圭治…一

R・ブルトマンにとってのイエスの意義に関して

……………名木田 薫…三

旧約物語テキストにおけるヒンネー(見よ)の機能

……………勝村弘也…五

シェリング『自由論』再考(二)

——自由と「地」の世界——

……………森 哲郎…八

研究ノート

P・ティリッヒの時間論

……………芦名定道…二五

キェルケゴールの「自己の定義」について

……………山本忠義…三三

彙報

一九八六年度基督教教学講座講義題目

水垣 渉教授 講義 「キリスト教思想の基礎」

研究 「四世紀におけるキリスト教

教義の形成」

演習 「キリスト教学基礎演習」

「Origenes: Commentarii in

Ioannem」

金子晴勇講師 研究 「ルターとドイツ神秘主義」

橋本 淳講師 研究 「キルケゴールの宗教哲学」

稲垣良典講師 研究 「中世の倫理思想」

片柳栄一講師 研究 「時と永遠」

勝村弘也講師 演習 「古典ヘブル語文法及び創世

記」原典講読

宮谷宣史講師 演習 「Augustinus: De doctorina

christiana」

榊形公也講師 講読 「Kierkegaard: Die Krank-

heit zum Tode」

一九八五年度論文題目

学士論文

高坂 満 「スウェーデンボルクにおける

自由意志についての考察」

第一号 目次

終末論の二類型	武藤 一雄
キリスト論の視点	森田雄三郎
初期アウグスティヌスの人間学	金子晴勇
Lumen Christi	佐藤吉昭
ルターの“ <i>Ohriikeit</i> ”に関する一考察	早乙女禮子
ルターにおける信仰と礼典	竹原創一
バルト「ローマ人への手紙」における神認識	村山周治

第二号 目次

オリゲネスの「キリスト教理解」	水垣 渉
ゲッセマネ	大島征二
神学における言葉の問題	竹原創一
アウグスティヌスにおけるキリストの 人性について	小池三郎
ギリシヤ語旧約聖書における <i>na'afsa</i> について	伊藤利行
エルンスト・トレルチにおける <i>Kom- promis</i> の概念	安酸敏真
シェリングに於ける「世界経験」について	森 哲 郎
ルターにおける「外」と「内」につい ての一考察	片柳俊子

第三号 目次

キルケゴール研究の方法について……………小川圭治
 エイレナイオスと聖書……………菊地栄三
 テイリツヒの芸術神学について……………田辺明子
 絶対の相の下に……………片柳栄一
 ルターの律法理解……………宮庄哲夫
 聖書へブル語統辞論のテキスト言語学的考察…勝村弘也

第四号 目次

ルターの解釈学は「実存論的解釈」と
 いえるか……………今井晋
 キプリアヌスの教会理解……………佐藤吉昭
 ノビリの印度伝道……………塩谷悟
 テンブルックのヴェーバー解釈をめぐる論争…高野晃兆
 フィロンとキリスト教……………平石善司
 ルターの抵抗権思想における服従の問題…早乙女禮子
 創世記テキストにおける語りの技法……………勝村弘也
 シェリングに於ける神話と世界……………森哲郎
 ヘクサプラ断片の残存率について……………伊藤利行

第五号 目次

解釈学的教義学の構成について……………	森田雄三郎
内村鑑三と「身体の救い」……………	原島正
言語芸術作品としての旧約聖書物語テキスト……………	勝村弘也
エルンスト・トレルチにおける「歴史 の神学」の構想……………	安酸敏真
教義学的思考における解釈学的循環の問題……………	掛川富康
第六号(武藤一雄名誉教授古稀記念特別号) 目次	
神学的宗教哲学について……………	武藤一雄
アレクサンドリアのフィロンにおける 能助と受動の問題……………	水垣涉
奇蹟物語へのマージナリア……………	大島征二
アルバート・シュヴァイツァーの聖餐論への 新約聖書学的批判……………	田辺明子

ヨセフスのモーセ物語について……………	秦剛平
エイレナイオスの人間理解……………	菊地栄三
キプリアヌスの『棄教者論』考察……………	佐藤吉昭
アウグスティヌスの時間論……………	片柳栄一
ルターにおける「アフェクトゥス」の問題……………	今井晋
ルターとアウグスティヌス……………	金子晴勇
神学的構造主義の問題……………	森田雄三郎
M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と パリア民族の概念……………	高野晃兆
浄土系仏教とキリスト教の救済論の 一異に関する考察……………	原田博充
日本の伝統的宗教的心情とキリスト教 との関連について……………	名木田 薫
ウィリアム・ケアリの伝道に対する貢献……………	塩谷 悟
神概念の転換……………	小川圭治

第七号 目次

ルターと神学的決定論……………	金子晴勇
Imago Deiとしての精神の自覚の 三一的構造……………	片柳栄一
脚下照顧……………	武藤一雄
M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と カスバリの批判(一九二二)……………	高野晃兆
パウロ・ティリッヒと象徴の問題……………	芦名定道

第八号 目次

キリスト教概念の成立(その一)……………	水垣 渉
アルベルト・シュヴァイツァーの「イエス 神秘主義」……………	笠井恵二
シェリング『自由論再考』(一)……………	森 哲郎
ルターにおける職業観の問題……………	早乙女 禮子

執筆者

小川圭治
名木田薫
勝村弘也
森哲郎
芦名定道
山本忠義

筑波大学教授

岡山理科大学教授

松蔭女子学院大学・短期大学助教

関西学院大学非常勤講師

京都大学大学院博士課程在学中

京都大学大学院博士課程在学中

第九号編集実務委員会

伊藤邦幸
小池三郎
高野晃兆
林野忠良
片柳栄一
宮庄哲夫

一九八六年二月二十五日印刷
一九八六年二月二十八日発行

定価 一〇〇〇円

発行者 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部
基督教教学室内
発行人 伊藤邦幸
印刷所 河北印刷株式会社

本誌の御註文は、右記、京都大学基督教学会(振替京都三七二〇七)へ、送料とも一、二〇〇円(定価一、〇〇〇円、送料二〇〇円)を添えてお申込み下さい。

JOURNAL
OF
CHRISTIAN STUDIES

KIRISUTOKYOGAKU KENKYU

Vol. 9

December, 1986

Contents

- “Kitaro Nishida und das Christentum
—in Bezug auf das Denken Katsumi Takizawas
..... Keiji Ogawa*
- In Betreff der Bedeutung Jesu für Rudolf
Bultmann..... Kaoru Nagita*
- The Function of *hinneh* and *w^ohinneh* in
Old Testament Narrative Hiroya Katsumura*
- Schellings Abhandlung über das Wesen der
menschlichen Freiheit (I) Tetsuro Mori*
- The Problem of Time in Paul Tillich..... Sadamichi Ashina*
- Über Kierkegaards Definition des Selbst..... Tadayoshi Yamamoto*

THE SOCIETY OF CHRISTIAN STUDIES
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto Japan